

世界経済の展望と課題 —新興国のバランスシート調整—

長 井 滋 人

目 次

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. はじめに | 3. 中国バランスシート調整の行方 |
| 2. 世界経済の大きな構図 | 4. グローバル資本フローの巻き戻し |

1. はじめに

2015年に続いて世界経済の先行き見通しについてお話をする機会を頂いたが、この1年を振り返ってみても相変わらず「ぱっとしない」世界経済が続いている。本日は、まず今世紀入り後の世界経済の大きな構図、ストーリーを説明した上で、世界経済の現状と展望について、原油安の予想を下回るプラス効果やslow tradeと呼ばれる世界貿易の不振などに触れつつ議論する。その後に当面の世界経済にとって一番大きなテーマである新興国のバランスシート調整に焦点を当ててお話を差し上げたい。具体的には、世界の関心の的である中国経済について、供給サイド改革の展望、資本流出問題と金融政策運営の関係、今後の不良債権処理の展望などについてお話しする。その他の新

興国経済については、国際金融危機後に急速に高水準にまで積み上がった債務のうち、特にドル建て社債が今後の米国における金融正常化の過程でどのような脆弱性を持つかについて日本銀行内部における分析を紹介したい。

2. 世界経済の大きな構図

(1) 当面の成長見通し

16年の1月に公表されたIMFの最新の世界経済見通しを見ると(図表1)、IMFのラガルド専務理事が2014年秋に同見通しを公表した際に用いた「New Mediocre」という表現がぴったりの状況が続いている。Mediocreとは「ぱっとしない」という意味である。どう「ぱっとしない」のかと言うと、国際金融危機までは5%近い高成長を続



長井 滋人(ながい しげと)

日本銀行 国際局長。1986年東京大学経済学部卒業後、日本銀行入行。92年タフツ大学フレッチャ―法律外交大学院卒。93年～96年に国際通貨基金へエコノミストとして出向。2004年8月国際局国際経済調査取り纏め、07年7月アジア金融協力センター担当参事役、09年7月鹿児島支店長、11年4月企画局参事役、12年5月欧州統括役を経て14年6月より現職。

(本稿は2016年3月22日に日本証券アナリスト協会で講演された講演会の要旨である。)